

## ご協力者芳名録 (敬称略、順不同)

関西大学探検部OB会

関西大学学生課

川手昭平 (探検部部長顧問、関西大学工学部教授)

バンクーバー日本総領事館

アンカレッジ日本総領事館

河崎源 (関西大学探検委員会委員長)

松村周介 (松下電工、探検部3代OB)

増瀬光弘 (同和火災海上保険奈良支店、探検部6代OB)

清水達之 (探検部26代OB)

浅井武司 (小野薬品工業、探検部28代OB)

岩根大典 (探検部28代OB)

三浦 智、福田毅、土山貴弘 (探検部34代OB)

佐藤慈子 (朝日新聞東京本社写真部、探検部35代OB)

山本靖朗 (探検部35代OB)

関西大学探検部現役部員一同

朝日新聞大阪支社写真部

岩谷リゾート

カヌーショップP. S. K.

カヌーショップトア・ジャパン

今回の遠征では情報協力、技術協力そして励ましと多くの方々にご協力をいただきました。これらのご協力が何一つでも欠けていたらこの遠征の成功はなかったと思います。ここに関係者の名前を掲載することで感謝の意を表させていただきたいと思います。

# おわりに

録西出員料

遠征を終了してから半年、計画を立案してから3年の月日が経とうとしている。月並みではあるが“月日が経つのは速い”と言わざるをえない。

遠征隊員6人のうち私を含む休学していた連中4人も今年から復学し、4月からはまたいつものように眠そうな顔をして足元が空中に浮くほどの満員電車で揺られながら桜の舞う学校へ通いだし、新入部員勧誘、就職活動、授業などと慌ただしい日々を送って行くのだろう。

振り返ってみると、過去2年間の国内トレーニング期間中は私、いや私を含む6人の20年あまりの人生の中で最も充実していたのではなかろうか。大雪の降る北海道へ季節はずれのカヌーで出動し氷を砕きながら航行したり、大雨で増水した白い牙剥き出しの濁流へ突っ込み転覆して揉みくちやにされても懲りずに前へ進んだり、腐る程暑い真夏の関東平野で1か月もわざと食糧の量を減らした訓練をおこなったり、時間があれば全国あちこち渡り歩いた。今となっては考えてみると本当に飽きもせず馬鹿馬鹿しいことを繰り返してきたが、目標に向かって突き進むことの貴い姿は踏まれても折れない雑草のようで、常に目がキラキラしていた。関西大学の何万という学生の中でもあんなに生きのいい魚のような目をした奴らはいなかった。

22歳の若造が生意気を言うようだが、人間いつでも目標をもたなければならぬ。この遠征で、つまり準備段階も含めた遠征で我々は学校の授業では教えてもらえないありとあらゆることを身を以て勉強できたような気がする。これぞ大学の課外活動の醍醐味ではなかろうか。

遠征も無事終わり平穏な日々が続く現在であるが、6人は新たな目標へ向け走り続けている。まるで泳ぐのをやめたら死んでしまうマグロのように。藤巻は既にネパール・タイへ高飛びし、関谷は自転車日本一周の資金を作るため泊まり込みでアルバイト、高木は37代探検部主将として岡山の洞窟を探検中で、戸谷は悟りを開くため天理の里で修行中、鹿野は帰国後手術した膝も回復し自動車運転免許を取得した後今度は自動二輪免許に挑戦するらしい。そして私はといえば、3日後に迫った中国留学の出発を狭い下宿の部屋で待っている。

隊長 春日 常貴

関西大学アラスカ遠征隊

—— ユーコン河カヌー航行 ——

報告書

発行日 1995年4月25日

編集・発行 関西大学探検部  
大阪府吹田市山手町

印刷 河村印刷株式会社